

今日のみことば

□ 11月5日(日) レビ記 26章

民が神の戒めと掟を守るならば豊かに祝福を与えて下さると言われる。その素晴らしさは、最初の人を経験したものである不従順は民に災いをもたらします。

□ 11月6日(月) レビ記 27章

ここには誓願と十分の一のささげ物について記されている。すべての家畜、農産物は神のものである。それ以上に人々は誓願により感謝のささげ物をすることが出来た。

□ 11月7日(火) 民数記 1章

民数記はシナイでの民の人口調査の記録であるが、大部分はイスラエルの民の荒野での長いさすらいの旅の間の出来事が、彼らの心構えが慎重に調べられている。

□ 11月8日(水) 民数記 2章

この章では宿営と行軍のための、部族別の序列について記されている。神の民は、正しく組織化され、秩序立てられなければなりません。

□ 11月9日(木) 民数記 3章

レビ人は祭司の補助者として下働きをし、幕屋の管理にあたった。その役割のために位階的に異なり、一般のイスラエル人とは別に数えられた。

□ 11月10日(金) 民数記 4章

ここでは三つのレビ族の氏族の人口調査と、彼らのなすべき任務の具体的な規定が記されている。彼らは神礼拝の仕事のために他の部族から離された。彼らに神礼拝に勝るものなかった

□ 11月11日(土) 民数記 5章

ここには身の汚れに関する規定、不信の罪、妻の背信の疑いに関する規定が述べられている。それらは行軍の秩序が守られるため、霊的に整えられる必要があったからである。

ろ ぼ No. 1840
2017年 11月 5日
日本バプテスト立川キリスト教会
牧師 大川 博之

詩篇 23

主は私の羊飼い／私は乏しいことがない。

私は神さまを信じて生きる者として、このダビデの詩に、どれほど励まされ、生かされてきたか判りません。

ある人が、八十を超えた老人に「さぞご不自由でしょうね」と尋ねたところその老人は「いや、父が行き届いて世話をして下さるから、別段不自由はありません」と答えました。「あなたの父上はまだ生きておられるのですか」と尋ねると、彼は「まだ生きていますばかりか、彼はいつまでも死にません。しかもその父が、私のなくてはならぬものを知ってそれを備えて下さるから、私は幸福に暮らすことができます」と言ったそうです。もちろんその父とは、神さまを指したものであることに疑いはありません。羊飼いが羊を、青草

の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴うように、天の父は、私たちに行き届いた、豊かな恵みを与えて下さるお方です。

私は、永眠者記念日を覚えてこの礼拝をささげさせていただく時、いつも計り知ることが出来ない、神さまの慈しみを憶えさせていただくのです。神さまはいつも、私と共にいて下さるそれは時空を越えたものです。今年、はからずも坂元四郎兄と坂元てる子姉ご夫妻を天に送りました。私たちは坂元兄には本当に多くの信仰の導きをいただきました。ダビデが歌うこの詩篇「主は御名にふさわしく／わたしを正しい道に導かれる。死の陰の谷を行くときも／わたしは災いを恐れない。あなたがわ

たと共においてくださる。」との姉の歩みを思い起こさせて
いただくのです。パウロの「もし神がわたしたちの味方であ
るならば、だれがわたしたちに敵対できますか」(1コリ8:31)との
思いこそが私たちのものです。その信仰に生きて、この立川バ
プテスト教会を支えてきて下さった信仰の先達を、私たちはし
っかりと見つめさせていただくのです。

私はダビデ王が、少年時代を羊飼いとて過ごした日々を思
い起こしながら、自らが歩んできた日々を思い歌うこの詩篇に
私たちは、自分の人生を振り返られる思いで聞くのではあり
ませんか。ダビデほどの起伏のある人生ではありませんが、し
かし、私たちの今がここにあります。今日の世界の大きなうね
りの中で私たちは、しっかりと神さまのお計らいを心に留めさ
せていただくのです。坂元兄は「憲法9条を守る会」会員とし
て行動され、野津兄はご自身の戦争体験を文書として残される
など、信仰の先達の行動は、確かに私たちに、その生きる世界
に何を語り残してゆくのか、を告げてくれるのでした。そこには
ダビデが語る「あなたは私と共におられ／あなたの鞭と杖と
が私を慰める」と言うことばが身にしみ入るのです。神さまは愛
し慈しまれる私たちを、試練の中におかれます(箴言3:11-12)。
私たちは神さまの愛の鞭をしっかりと受け止めることを通して
さらに、私たちは共において下さる神さまを実感させていただく
のです。私たちの信仰の先達たちは、そのことを私たちに語り
残してくれました。「生きている限り、主の恵みといつくしみ
が、私についてきます。やがて、私は主の家に着き、いつまで
もおそばで暮らすことでしょう。」(23:6)と私たちも告白をす
るのです。

次週の聖書・説教

《 聖書の学び・祈祷会 》

イザヤ 44:24-45:1 キュロスを用いる神

神が天地万物の主であると言う、普遍の真理を私たちが忘れ
るはずがありません。その神が改めてこう宣言される、「イス
ラエルの王である主／イスラエルを贖う万軍の主は、こう言わ
れる。わたしは初めであり、終わりである。わたしをおいて神
はない。」と。

イスラエルはこの神によって選び出されたしもべであり、証
人です。実際には心をかたくなにした不信の、さばきの下に置
かれるのみでしたが、神はご自身の故に、罪の赦しを宣言され
ます。神の赦しによってその先には希望が約束されます。

その約束は具体化されます。キュロス王の治世に、エルサレ
ムの町とその神殿は再建されるようになる。神はイスラエルの
救いについて、異邦人、外国の王を用いると言われます。イス
ラエルの民からするとあり得ないことです。神は正しいお方
です。「わたしは主、万物の造り主」なるお方です。



Read God's Word.